社会福祉法人そよかぜの丘

２０２２年度事業報告

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

社会福祉法人そよかぜの丘　２０２２年度事業報告

２０２２年度の運営状況について……1
□　重点方針……2
□　重点施策……2
Ⅰ　利用者サービスの充実を図ります。……2
Ⅱ　地域福祉の推進に取り組みます。……3
Ⅲ　法人運営を担う人材育成のため環境整備を図ります。……3
Ⅳ　運営基盤の安定に向けた取り組みの推進をします。……4
Ⅴ　利用者の安心・安全な支援の徹底を図ります。……4

施　設　別　の　事　業　報　告

・　港南中央地域活動ホームそよかぜの家……5
・　グリーンヒルズそよかぜ……8
・　横浜市日野南地域ケアプラザ・そよかぜ南の家……9
・　キララそよかぜ……12
・　あ～す そよかぜ……12
・　障害者後見的支援室 すまいる港南……13
・　各種委員会報告……14

資　料　集

□資料１：港南中央地域活動ホームそよかぜの家　事業実績……15
□資料１：そよかぜ南の家・キララそよかぜ・あ～すそよかぜ　事業実績……15
□資料２：横浜市日野南地域ケアプラザ　事業実績……16
□資料３：港南中央地域活動ホームそよかぜの家　生産部門収支決算……18
□資料４：そよかぜ南の家　生産部門収支決算……18
□資料５：キララそよかぜ　生産部門収支決算……18
□資料６：あ～す そよかぜ　生産部門収支決算……18
□資料７：年間外部研修受講状況……19

２０２２年度の運営状況について

２０２２年度はコロナ禍に加え、物価高騰等ありましたが、利用者・ご家族、地域の方々や関係機関など多くの皆様のご理解・ご協力により運営を継続することが出来ました。関係者の皆様に感謝申し上げます。

重大事故防止としては、「事故防止対策委員会」等の取組みを継続、定着を図り、外部研修の積極的受講や工夫を凝らした職場内研修を実施し、より安心・安全な支援に徹底してまいりました。

昨年まで自粛されていたイベントの開催も少しずつ動きだし、法人は設立２０年を経過し、更なる発展を目指し全常勤職員参加型での各委員会等に取り組んでまいりました。

これからも安心・安全・安定した運営に努めてまいりますので、利用者・ご家族の皆様、地域の皆様、関係機関の皆様、ご支援・ご協力の程お願い申し上げます。

◇◆重点方針◆◇

次の５つを重点方針として、具体的な施策を取り組んでまいります。

Ⅰ　サービスの充実を図ります

Ⅱ　地域福祉の推進を行います

Ⅲ　人材育成のための環境整備を行います

Ⅳ　運営基盤の安定に向けた取り組みの推進をします

Ⅴ　利用者の安心・安全な支援の徹底を図ります

◇◆重点施策◆◇

Ⅰ　サービスの充実を図ります。

（１）コロナ禍で不安を感じている利用者・家族が、安心して通所が出来るよう感染予防に全力で取り組み、安全な支援に努めます。

利用者の強みを生かした活動を行い、利用者が意欲的に参加できるようにしました。感染予防としては活動内容や環境面の工夫をし、安心して過ごせるように努めました。

（２）利用者の「意思決定支援」を関係機関と連携し進めます。また利用者の高齢化への適切な対応を図ります。

利用者の意思に寄り添えるよう、丁寧な対応に努めました。様々な事業を通じて関係機関との連携を進めました。また、事例検討会を行い利用者の高齢化についての対応を図りました。

（３）地域の関係機関との連携による「地域生活支援拠点」のネットワーク機能を強化し、障害のある方が地域で安心して生活が出来るよう取り組んでいきます。

区内のケアプラザや区役所・生活支援センター・社会福祉協議会と課題等の情報共有をし、事例検討などを通じて連携強化を図りました。

Ⅱ　地域福祉の推進を行います。

（１）地域で開催される様々な活動に参加し、ニーズ把握に努め、関係機関と連携し、課題解決に繋がる事業の展開に努めていきます。

販売活動・清掃活動等、地域の行事に参加し、理解を深めていただくように努めました。コロナ禍ではありましたが「第１９回そよかぜふれあいまつり」は１０月２９日に無事に開催することができました。

（２）身近な福祉・保健の活動拠点としての機能を活かし、地域の方々と顔の見える関係づくり進め、ニーズに添った暮らしの実現に取り組んでいきます。

地域に出向き相談会や講座等の開催を行い、直接話す機会を作り事業所と地域との交流を行い、顔の見える関係づくりに努めました。

（３）コロナ対策を念頭に法人の運営する施設の活用等により、地域福祉の推進に努めます。

コロナの影響で施設の利用を制限していましたが、徐々に利用時間等を増やし解除後へ向けての円滑な運営に繋がるよう努めました。

Ⅲ　人材育成のため環境整備を行います。

（１）良いサービスを提供するには人材の育成が重要です。コロナ禍で大人数での研修は開催が難しいですが、オンライン研修や職場毎の小規模グループの伝達研修など工夫を凝らして職員のスキルアップを図ります。

多くの職員が受講できるよう、積極的にオンラインの研修を活用しました。また、徐々に増えてきた対面研修にも参加し、職場毎に伝達研修を実施しスキルアップを図りました。

（２）目標管理制度に基づく人事考課に対する職員の意識が高まり、意欲や資質の向上に繋がるよう取り組みます。

定着してきた目標管理制度の効果を確認し見直しをしました。更なる職員の意識の向上の為、人事考課の改善を図っていきます。

Ⅳ　運営基盤の安定に向けた取り組みの推進をします。

（１）コンプライアンスの徹底と共に、安定した財務基盤を確立するため各事業の運営状況を管理職会議・予算管理委員会等で検討し、改善に努めていきます。

毎月の月次報告会・管理職会議では各事業の運営状況の検討を行っています。また、予算管理委員会で事業毎の財務に関する課題を挙げ出し、安定を図るための検討に取り組みました。

（２）法人策定の災害時行動指針による「事業継続計画（ＢＣＰ）」の浸透を図るなど「安心・安全な運営」に取り組んでいきます。

危機管理委員会を中心に職場毎の委員会メンバーが事業継続計画（ＢＣＰ）の浸透を図るため説明会を開催し、職員の意識向上に繋がりました。

Ⅴ　利用者の安心・安全な支援の徹底を図ります。

（１）事故防止対策委員会の活動や危機管理の研修を進め、重大事故を決して風化させることなく安全な支援の浸透を図ります。

事故防止対策委員会を中心に、ヒヤリハット対策など事故防止の徹底の継続を行いました。また、事故防止対策委員会、危機管理委員会共に安全な支援の浸透を図るための活動に努めました。

（２）職員一人ひとりが基本理念に基づく責任を自覚し、高い倫理観を持って安心安全な支援に努めてまいります。

全職員参加の委員会活動の継続と定着を図り、職員一人ひとりが責任を持った活動ができるよう努めました。また、各委員会の連携を図り、安心・安全な運営に努めました。

港南中央地域活動ホームそよかぜの家

事業名/事業計画	成果/実績	課題/次年度の取り組み
１　相談支援事業		
港南区基幹相談支援センター		
■障害のある方の高齢化に伴う様々な課題に関係機関が連携して対応できるよう、区内の相談支援体制の強化に努めます。	●自立支援協議会のグループホーム部会で事例検討を行い、高齢化への対応方法について話し合いを行なった。 ●事業所や家族等から相談を受け、親なき後の本人の権利擁護を目的に成年後見制度の利用に繋げることが出来た。 ●全ケアプラザを訪問し、８０５０ケース等、課題のあるケースの共有が出来た。	●各専門部会で挙がった地域課題を３機関定例カンファレンスで吸い上げて検討し、全体会や各専門部会に戻し、具体的な取り組みを検討する。 ●高齢化が課題のケースはケアプラザ等との連携を強化する。
■地域課題を適時抽出し、検討できるよう自立支援協議会の編成を見直し、活性化を図ります。	●３機関定例カンファレンスでは、地域課題をテーマにしたケース検討及び新規ケース等の共有が出来た。	●３機関定例カンファレンスでは今年度挙げ出したテーマにあてはまらないケースや新規ケースについての共有を進めて、自立支援協議会に反映させる。
■地域生活支援拠点のネットワーク強化に向けて、当事者と地域のつながり作りに取り組みます。	●一人暮らしの当事者に対して、地域ケアプラザ等の講座やサークルへの参加を促し、継続して参加が出来るようになった。 ●区社協のつながり事業に参画した。 ●映画「梅切らぬバカ」の上映会・トークショーを開催した。「障がいのある方の地域生活について」をテーマに監督や関係者が壇上でトークを行い、地域に向けた理解啓発を行った。	●一人暮らしの当事者に限らず、必要な方が地域とつながれるよう情報提供や相談を受けて行く。 ●地域や支援機関に向けた福祉講座等を開催する。

２　指定特定相談支援事業・障害児相談支援事業		
■利用者のニーズを丁寧に把握し、適切なサービスが提供できるよう関係機関と連携しながらサービスの調整を行います。本人中心の支援ができるよう意思決定支援を進めていきます。	●モニタリング時期以外の相談へも丁寧な対応を心掛け、必要に応じて訪問しながら状況を把握し、支援やサービスの調整をした。	●利用者一人ひとりの理解を深め、より良い関係を構築できるように努める。 ●関係機関と連携しながら本人を中心とした支援チーム作りを進める。
■自立支援協議会の相談支援部会や外部研修等に参加し、個別事例の課題解決や相談支援専門員のスキルアップに努めます。	●自立支援協議会の全体会に参加し、相談支援に求めることについて他職種からヒアリングした。相談支援部会では事例を提出し、多角的な視点を取り入れながら支援を組み立てた。	●自立支援協議会に積極的に参加することで、他機関とのネットワークを強化しながらスキルの向上を図る。

事業名/事業計画	成果/実績	課題/次年度の取り組み
３ 障害者自立生活アシスタント事業／自立生活援助事業		
■利用者が自分で考えて決める「意思決定」を基本にし、利用者自身が自分の行動に責任を持てるようにしていきます。	●主体は利用者であることを意識し、情報の提供や生活課題についてアドバイスを行いながら本人の希望や意見を聞き、意思表示を促すことができた。	●自分の意志についてすぐ言える人もいれば、いない人もいる。時には家族や関係機関とも連携しながら、本人の意思を汲み取っていく。
■自立生活アシスタントの役割を活かしたチームアプローチを行います。	●内部ミーティングや外部会議を通して意見交換を行い、関係機関との情報共有および連携強化を行うことが出来た。	●引き続き、ミーティングや会議でのケース相談や事例検討を通して、様々な生活課題に対して経験を積んでいく。
■自立生活アシスタントの機能を活かし、適切なアウトリーチ支援が提供できるよう資質の向上に努めます。	●月１回の定例カンファレンスで、事例相談や区からの情報提供を基に、引きこもりに対する支援の現状やその問題に対して理解を深めることが出来た。	●相談ケースに挙がったまま支援に繋がるまでには至らない状況が続いている。事業の役割や機能が活かせるようスキルアップに努める。

４ 日中活動支援事業［生活介護事業・地域活動支援センター事業デイサービス型］		
■新型コロナウィルス感染症については、引き続き感染予防と感染拡大させない活動の工夫に力を入れていきます。	●活動や食事スペースをグループごとに分けて実施することで、感染拡大を防ぎ、安心して過ごせる場所作りにつなげた。 ●それぞれのグループの強みを活かした生産活動を創出し、利用者が意欲的に参加できるようにした。自主製品の種類を増やし売り上げにつなげた。	●引き続き、基本的な感染予防策を実施し、利用者が安心感を持って通所できる施設づくりを目指していく。 ●今後も、グループごとの強みを活かした新たな活動に利用者、職員が共に取り組み、活動のモチベーションにつなげていく。
■職員のスキルアップを目的とし、外部研修に参加した内容を伝達研修として職員全体で共有し、充実した活動を提供できるようにします。	●支援スキルアップのための外部研修に常勤職員が年２回以上受講できるよう、年間で計画を立て進めた。また、身近なテーマで設定した内部研修を毎月発信した。 ●限られた中で受講した研修内容を最大限に活かすべく、非常勤職員も含めた全体への伝達研修の場を設けた。	●今後も外部研修受講を計画的に進め、基本的な支援のスキルアップを図っていく。 ●毎月実施するミーティングを、内部勉強や伝達研修の場として活用し、継続的に学習できる機会につなげる。
■利用者、家族ともに高齢化が進む中で、将来を見据えた支援を行えるよう、引き続き関係機関と連携を取っていきます。	●相談支援事業所と積極的な連携を図り、計画相談への利用につなげた。 ●将来を見据えた生活課題を、本人や家族との面談や日々のコミュニケーションを通じて把握をした。必要に応じて外部機関との情報共有、連携を図った。	●本人、家族との面談やコミュニケーションの場を増やし、生活課題やニーズを抽出し、必要があれば外部機関とも連携を図り、解決につなげていく。 ●計画相談を中心として各関係機関との連携に力を入れ、利用者が安心して生活できるようサポートを図っていく。
■毎月の職員ミーティングでヒヤリハット及び改善点の共有を図り、危険予知・事故防止への意識を高めていきます。また定期的に防災訓練を行い、特に車椅子の方の階下への移動がスムーズにできるよう訓練します。	●日々のミーティングや、毎月の職員会議にて、ヒヤリハット報告の場を設け、改善に向けて活発な意見交換を交わした。また、ヒヤリハット報告は、事故を防ぐ上での「気づき」であることを日々伝え、報告し易い環境づくりを整えた。 ●年２回の防災訓練、日々の支援で抽出した課題に対する改善を図るべく、２カ月に１度のペースでプチ防災訓練を実施した。災害時、利用者の生命が守れるよう、個々の障害特性に応じた避難訓練を行った。	●事故防止対策委員会と連携し、他事業所における事故防止への取組みや、安全な支援におけるポイントを積極的に取り入れていく。 ●搬送訓練や心肺蘇生訓練に関しては、実際の現場支援を想定したロールプレイ研修を行い、緊急時への実践力を身につけていく。

事業名/事業計画	成果/実績	課題/次年度の取り組み
5　生活支援事業		
（1）一時ケア・ショートステイ		
■新型コロナウィルス感染症予防として消毒や換気を行うと共に、他機関や家族と情報共有を行い、利用の調整や過ごしを工夫し、安全に受入れをしていきます。	●感染症の影響を受けながらも、基本的な感染予防対策を講じ、利用者の体調確認をこまめに行った。また、家族との協力や関係機関との連携を通じ、利用調整を図ることで、利用者、家族にとって安心できる利用へとつなげることができた。	●引き続き感染症対策を行う。特に利用受入れ前の体調確認は、家族への積極的なコミュニケーションのもと、体調不良や感染疑いがある際は、他の日に振替えるなどし、利用者にとって安心、安全につながる調整をしていく。
■事故防止対策に重点を置き、マニュアルの共有、見直しを図り、職員の知識や技術の向上や安全に配慮した環境設定を行っていきます。	●外部研修に積極的に参加した。内部研修ではマニュアルの確認に加えて、事業に直結したテーマでの企画研修、非常勤ミーティングや危険予知、日々の支援に対する振り返りアンケートを行い、事故防止に関する知識、技術の向上を図った。	●外部研修受講等の学びの機会は定期的に設定していく。研修報告（伝達研修）や内部勉強会、日々の支援の振り返りを通じて、支援の質の向上を図っていく。共有することで、安全なサービス提供の統一化を図る。
■ミスヒヤリハットについて、ミーティング等で解決策の共有や改善提案を具体化し、事故を未然に防ぐ意識、構造の強化を行います。	●ミスヒヤリハット報告をすぐ伝えられる方式に変え、閲覧しやすく改善をした。結果、振り返りがしやすくなり、効果的にヒヤリハットに対する改善ができるようになった。	●支援者によって報告件数にばらつきがみられる。報告しやすい環境づくりや、ヒヤリハットの基礎知識について、ミーティング等を通じて行っていく。
（2）余暇活動支援		
■感染予防等の工夫をし、楽しんでいただけるプログラムの提供を行います。余暇活動を通して、仲間づくりや様々な人が交流することで、社会参加に繋がるプログラムの提供を行います。	●少人数で時間短縮した企画や、車両を使用した外出プログラムを企画したことにより、感染状況下でも実施することができた。法人内で感染者が出た際、また感染者数が高い月は延期にする事で状況に配慮した安全な実施につなげることができた。	●引き続き、プログラム内容をその時の状況に合わせ、工夫を凝らし、利用者が安心して楽しんでもらえる余暇活動を企画、提供していく。
■余暇活動支援アンケートを配布し、利用者やご家族の意見・要望を収集し、利用者それぞれが楽しめる余暇の場を提供できるようにしていきます。	●アンケートを実施し、利用者や家族の要望、意見を反映したプログラムを企画し、実施につなげた。	●今後もアンケートで利用者の意思や要望の聞き取りを行い、ニーズに合った余暇プログラムの実施をしていく。また、区内機能強化型地活や社協との連携をし、企画につなげていく。
■余暇プログラムについて、他の地域活動ホームとの意見交換や情報共有を行うと共に、地域資源の有効活用や、ボランティアや地域の方の協力をいただき、プログラムの充実に努めていきます。	●ボランティアを活用し、余暇企画を開催する事が出来た。また他施設の事業運営状況も聞き取りながら、企画・実施に反映することが出来た。	●学生や地域の方に声をかけ、ボランティア受入れに力を入れ、充実した余暇プログラムを企画していく。
（3）おもちゃ文庫		
■近隣区のおもちゃ文庫との情報共有に努め、安心して快適に利用いただけるおもちゃ文庫を目指していきます。	●他区のおもちゃ文庫への見学を行なった。障害児や家族への支援についての取り組みを学ぶことができた。 ●港南区内のおもちゃ文庫との情報共有を行なった。	●区内機能強化型地活や子育て支援拠点との連携を図り、活かしていく。地域への広報や宣伝に力を入れていく。 ●障害のある子や発達に心配のある子も利用しやすいおもちゃ文庫を検討していく。
■相談支援事業と連携し、おもちゃ文庫を利用される家族の障害児の子育てに対する不安を解消できるよう努めていきます。	●基幹相談支援センターと情報共有の機会を設けた。区役所が行っている子育て支援に関する取り組みや、重症心身障害児の家族会の情報を得ることができた。	●今後も情報共有や新たな取り組みについての打合せを行なっていく。 ●子育てをする親の困り感をキャッチ出来る場に参加する。
■ご意見箱を活用し、利用者のニーズに沿った「おもちゃ」を導入していきます。	●コロナ禍の影響でおもちゃ文庫の利用者数が伸びず、ご意見箱での意見収集ができなかった。	●現在の書面での自由記述方式から、Ｗｅｂを活用したアンケートなど、利用者が実施しやすい形式を取り入れていく。

６　地域交流事業		
■広報「風のおくりもの」第４０号及び法人設立２０周年記念誌を発行します。	●「風のおくりもの」第４０号を発行。２０周年記念誌は、これまで法人に関わってくださった沢山の方達の声を集め、次年度初めに発行予定となった。	●「風のおくりもの」第４１号（記念誌）、４２号、４３号を発行予定。
■「そよかぜふれあいまつり」は、コロナ禍で開催が困難と想定されますが、昨年度の実績を参考に時期や規模について実行委員の方々と検討していきます。	●「そよかぜふれあいまつり」は感染症の状況から、昨年同様に規模を縮小し１０月２９日に開催した。お天気にも恵まれ、昨年を上回る来場者があった。	●次年度の「そよかぜふれあいまつり」開催方法について、実行委員会で検討していく。
■地域で開催される行事については、規模にとらわれることなく参加し、交流を深めてまいります。	●コロナ禍で職員のみで参加していた地域行事が多かったが、感染対策を行いながら少しずつ利用者の参加もできるようになり、再び地域の方と交流する機会が持てるようになった。	●感染症の状況を見ながら、各種行事への参加を進めていく。

グリーンヒルズそよかぜ

事業名/事業計画	成果/実績	課題/次年度の取り組み
７　共同生活介護（援助）事業		
■コロナ禍での入居者の状態に合わせてサービス提供が継続できるよう生活環境を整えます。	●コロナ対応の際はゾーニングや勤務形態の工夫をする事で、感染を広げる事無くサービスを継続できた。 ●今までホーム職員が行っていた支援の一部を他サービスに繋げ、関係機関との役割分担を進めることができた。	●コロナ終息に向けて感染対策や余暇活動などを見直し、情勢に合わせた対応をできるよう実施していく。 ●入居者の高齢化もあり、支援が増えていくと思われる。通院に限らずホームで対応する事と他機関に依頼するものを整理していく。
■ミーティングや研修を通して常勤職員・非常勤職員それぞれが危機管理に対する意識を高め、より安心して生活していただけるように努めます。	●入居者の緊急時を想定した実践練習を実際の現場で実施することで、ホームの構造に合った対応を確認できた。非常勤職員も参加して、心肺蘇生の技術と、組織としての連絡順序等を確認することができた。	●グリーンヒルズとフォレスタでも実践練習を実施する。今後も緊急時に向けた訓練を定期的に行っていく。

横浜市日野南地域ケアプラザ・そよかぜ南の家

事業名/事業計画	成果/実績	課題/次年度の取り組み
８　地域包括支援センター[横浜市委託事業]		
■３職種が連携して、様々な相談に丁寧に対応し、本人・家族のニーズに寄り添いながら、必要な機関に繋げていきます。	●３職種が連携して、様々な相談に丁寧に対応し、サービスに繋げることが出来た。介護サービスに繋がらない方には地域の活動を紹介するなど見守りに繋げた。 ●相談前のニーズの把握には、地域活動への参加や、民生委員、地域住民との関わりを活用した。	●引き続き地域活動への参加や、民生委員、地域住民との交流の機会を持ち、地域の困り事などのニーズを早めにキャッチしていく。
■出張講座や自主事業を通して、地域の方々と顔の見える関係づくりを進め、地域包括支援センターの周知をしていきます。	●町内会館、シルバークラブ、小中学校等への出張講座等、地域の方の関心の高い自主事業を開催して、地域包括支援センターを周知した。	●引き続き、地域ニーズに沿った事業を行い周知していく。
■多問題ケースに対応できるよう研修等を受講し、職員のスキルアップを図ります。	●虐待、障がい者、キャラバンメイト、認知症の映像体験や地域ケア会議従事者研修など様々な研修を受講した。 ●所内で５職種とケアマネで事例検討会を行った。	●多問題ケースに対応できるよう、引き続き様々な研修等を受講していく。

事業名/事業計画	成果/実績	課題/次年度の取り組み
９　地域活動・交流事業[横浜市委託事業]		
■誰もが自分の住む地域で安心して暮らせるよう、関係機関や社会資源へと繋げ、地域の課題解決に向けた地域ネットワークづくりの支援に努めます。	●地域と障がい児･者を繋ぐ「つながり事業」に参画し、「日野地区社協と事業所交流会」や「日野南地区社協放課後デイ見学会」など様々な活動を行った。 ●子育てや高齢者の状況などを他機関と情報共有し、問題解決に向けて動くことが出来た。	●障がい児･者と地域をより繋ぐため「安心防災帳」などを通して理解を深めていく。 ●居場所づくりに関してどのように関係機関や社会資源に繋げていくか検討が必要である。
■多様なツールを活用したケアプラザの周知、情報提供や発信により、幅広い世代が地域福祉や地域活動に関心を持ち、活動できる場づくりと自分らしい暮らしにつながる事業の展開を図ります。	●広報紙「みなみのかぜ」では、貸館団体の活動紹介を載せ、メンバーを増やすなど団体の活性化に繋げることが出来た。 ●地域のニーズに合わせて自主事業を検討し、提供することが出来た。	●公式ＬＩＮＥを活用し、定期的に発信できるようにしていく。 ●ボランティア活動の場の拡大に力を入れていく。
■第４期地区別地域福祉保健計画に則り、地域住民、関係機関と意見交換・情報共有を行い、地域づくりの推進に取り組みます。	●「日野地域づくり連絡会」や「日野南地域支えあいネットワーク連絡会」を通して地区別地域福祉保健計画の推進を支援した。	●令和５年度は地域福祉保健計画の中間年度であるため、各計画に向けて振り返りを行う。

事業名/事業計画	成果/実績	課題/次年度の取り組み
10 生活支援体制整備事業［横浜市委託事業］（地域の多様な支え合いの体制づくりをすすめる事業）		
■地域の活動に積極的に参加し、ニーズ把握に努め、関係機関と連携し、地域主体で取り組めるよう支援します。	●地域からの相談を受け、助成金等の情報を提供し、町内会活動の活性化や「日野地区シルバー友愛スポーツ交流会」の立ち上げを支援した。 ●包括との共催で「エンディングノート」の出張講座を自治会館で行った。	●地域を小単位に分けた地域アセスメントを進め、より精度の高いニーズ把握に努めていく。
■高齢者の方々が安心して暮らし続けられるように、憩いの場や送迎問題などに着目した協議の場を作ります。	●介護予防・生活支援サービス事業（サービスＢ）における「通いの場（いこっかぷらす）」の参加者の獲得支援等を行い、活動の安定化や新規事業（配食支援）の立ち上げに繋がった。 ●社会貢献として特別養護老人ホームに送迎を依頼し、活動団体に繋いだ。	●地域アセスメントの結果を地域の方と共有し、必要とされる資源の開発、開拓に向けた協議の場を作っていく必要がある。 ●「ｉｃｏｏｃａ」がサービスＢとして取り組む 配食支援の関係機関への周知と、コロナ禍に活動時間が短縮された「通いの場」の通常実施への支援。
■見守り協力事業所や介護事業所等と連携し、地域のニーズに合った社会貢献ができるように橋渡しを行います。	●障害理解啓発活動として、障害福祉事業所の見守り協力事業所訪問に同行した。 ●日野・日野南地区介護事業所連絡会主催「介護の窓口～事業所紹介＆相談会」を行い、事業所と地域住民の交流、介護保険や事業所を知っていただく機会になった。	●見守り協力事業所との関係づくりを十分に行っていく。 ●介護事業所連絡会としての地域貢献をどのように展開していくか検討する。

11 居宅介護支援事業		
■利用者、家族と信頼関係を深め、ニーズを的確に把握し、より良いプランを作成します。	●より的確にニーズを把握する為、アセスメント書式の見直しを行い、聞き取りを行いやすくした。 ●利用者の状況に合わせ、訪問の頻度を増やす等の対応を行っている。	●適切な介護保険サービスの提供と、安心且つ安全な在宅生活が継続できるよう努める。
■インフォーマルサービスとの協働、関連事業との連携強化に努めます。	●ケアプラザや地域で行なわれている事業に繋いだり、利用されている方について連携した。	●地域に密着した民生委員やボランティアとの連携も密に行ない、在宅生活が継続できるような支援を引き続き行なっていく。
■研修に積極的に参加し、内部で勉強会を行って、情報共有の他、制度理解を深め、技術の向上に努めます。	●研修への参加だけでなく、事例検討会や地域ケア会議等に参加し、他機関との連携や知識習得に努めた。	●引き続き、知識、技術の向上に努めるとともに、行政や医療、地域、関係機関との連携を継続していく。

12 そよかぜ南の家　日中活動支援事業（生活介護事業・就労継続支援事業Ｂ型）		
■利用者と家族、地域、関係機関との信頼関係の構築・連携に努めます。利用者を支える様々な社会資源や関係者との積極的な連携を通じて、提供するサービスの質の向上に繋げます。	●家族懇談会を開催し、「活動の見える化」を図った。計画相談と連携し、情報共有や今後の支援の統一化を図り、サービスの質の向上に繋げた。	●今後も、安心して通所できる事業所作りを目指し、利用者・家族・関係機関との積極的なコミュニケーション・連携を図り、サービスの質の向上に繋げていく。
■利用者が安心し、やりがいをもって意欲的に活動できるプログラムを提供します。そのために、ＯＪＴ（現場教育）・ＯＦＦ－ＪＴ（外部研修）・ＳＤＳ（自己啓発への援助）・日々のミーティングを通じて、職員の支援力アップを図ります。	●アンケートや利用者自治会、日々のコミュニケーションから利用者のニーズを把握し、個性に応じたプログラムを作成した。グループを固定することなく、柔軟な活動を行った。	●今後も外部研修受講、内部勉強会実施、支援ミーティングを継続的に行ない、事業所全体の支援力アップを目指していく。
■就労活動では、新たな作業の開拓や製品販路の拡大に努めていきます。	●外部施設のパン販売、清掃、窓ふき作業などの、新規開拓を行った。新作パンの開発やドリンク販売を再開し、生産活動の売上・利用者の作業意欲の向上に繋げた。	●今年度獲得した新たな活動を絶やさないよう、関係先と良好な関係を築き、安定的な実施に努めていく。
■事故防止のための取組みを行います。日々のヒヤリハット抽出・共有・検証・実践、内部勉強会、避難訓練を実施します。	●毎月、内部勉強会を実施した。普通救命講習は全ての常勤職員が受講した。その他の職員については、内部研修会として救命講習を行った。	●継続的に安全に関する内部勉強会や外部研修の受講をしていく。

キララそよかぜ

事業名/事業計画	成果/実績	課題/次年度の取り組み
13　生活介護事業		
■利用者の経験や体験を増やし、必要な理解を深め、意思決定につながる支援を行います。	●販売や受注作業、自立課題など、利用者一人ひとりが自身で選択し、好きな作業に携われる機会を増やした。	●作業の種類を増やすことで意欲的に行える経験を増やしていく。
■近隣の公園清掃を行い地域の方との関わりを深めていきます。	●町内のお祭りに販売で参加し、地域の方との交流を深めることが出来た。	●近隣公園の清掃活動に参加し地域の方との関わりを深める。
■職員の危険予知・事故防止に向けた訓練を行います。	●ヒヤリハットの在り方を再確認するとともに、危険予知の訓練を行った。	●危険予知に向けた事故防止の訓練を行う。
■施設内の会議で研修を取り入れ支援の向上に努めます。また関連施設や関係機関と連携を図り多面的な視点で支援を行います。	●虐待防止研修、意思決定支援の観点から、不適切行為を話し合うグループワークを取入れた虐待防止研修を行った。	●意思決定研修を行う。 ●利用者の高齢化に向けた支援が必要となる。

あ～す そよかぜ

事業名/事業計画	成果/実績	課題/次年度の取り組み
14　生活介護事業		
■利用者の障害特性に配慮した支援を実施し、意欲的に活動に参加ができるようにします。	●自閉症の障害特性に配慮した環境設定を実施し、落ち着いた環境で活動に参加ができるようにした。	●新規の利用者の受け入れをしている中で、それぞれが活動に参加しやすいように引き続き環境設定を模索していく。
■利用者や家族、関係機関、事業所と情報共有を図り、関係機関と連携しながら多角的な視点での支援を目指します。	●並行利用先を含めたカンファレンスや計画相談との情報交換を行ないながら支援を実施することができた。	●計画相談など関係機関との連携を強化する。
■施設周辺やバス停留所などの清掃作業を行い、地域貢献に努めていきます。	●定期的に施設周辺の清掃作業を行なったことで、地域の方に声を掛けられることも増えてきた。	●公園、バス停等の清掃作業を継続することによって地域と関わっていく。
■職員一人ひとりが、よりスキルアップするため積極的に研修に参加します。	●外部研修に参加をした他、内部研修では救急救命の研修などを実施した。	●事業所の体制を整えることによって職員が外部研修への参加ができるようにしていく。

障害者後見的支援室 すまいる港南

事業名/事業計画	成果/実績	課題/次年度の取り組み
15　後見的支援事業		
■登録者、家族との面談や訪問等を通して良好な関係を築き、安定した支援をしていきます。	●定期的な面談を通して、生活状況・健康面･不安や困り事はないか確認を行うことが出来た。緩やかな関わりの中で、年数を重ね信頼関係を築きながら、登録者、家族の心の内を聴くことも出来た。	●関係性を大事にしながら、よりチームワークで対応できるようにしていく。
■地域の団体等と連携を密にし、必要な方に利用が繋がるようにしていきます。	●基幹相談支援センター、生活支援センター、区役所からの紹介も増え、必要な方の利用に繋がった。また、区内４か所の地域ケアプラザで事業の説明を行い、制度理解に努めた。	●来年度は残り５か所の地域ケアプラザを訪問し、地域ごとの特色やあんしんキーパーの情報を取得していく。
■地域の立場から緩やかに日常生活を見守る「あんしんキーパー」の開拓に取り組み、協力や登録を呼びかけます。	●あんしんキーパー茶話会を開催した。地域で見守っていただいているあんしんキーパーの方の意見を聞き、職員と直接顔を合わせて交流することが出来た。	●今後も茶話会を開催する。日程調整がしやすいよう、あんしんキーパーへ早めの連絡をする。
■登録者・家族に成年後見制度等の情報提供を行います。職員は、研修等で知識を深め、より一層のスキルアップに努めていきます。	●成年後見を考えているご家族に情報提供を行った。職員は、必要な研修に個別に参加することが出来た。	●必要に応じて成年後見制度の情報を提供する。職員は、研修等に参加し、さらに知識を深める。

各種委員会報告

委員会名	内容	開催回数
危機管理委員会	災害時伝言ダイヤル携帯電話番号リストを作成し、全職員に配布。リストを基に伝言ダイヤルの録音・再生・報告の全体訓練を行った。各事業所での転倒落下防止の状況確認を進めた。	６回
事故防止対策委員会	毎回各事業所からヒヤリハット報告を行い、その中で特に改善の必要があるものについて検証を行った。外部で実施している普通救命講習にほぼ全員の常勤職員が参加した。常勤以外の職員も施設内での講習に参加することができた。「ZIKOBOU@NEWS」を発行し、全職員に委員会や各事業所での取り組みなどを周知した。委員会内でアンケートを実施し、今後の委員会の運営の在り方などについて検討した。	１０回
虐待防止委員会	虐待防止に関する内部研修を各事業所で実施することが出来た。虐待防止法を基本とし、各事業所の特性に合わせたテーマで内部研修を行なった。各事業所で実施した研修内容やアンケートを委員会で共有した。	６回
研修推進委員会	今年度も各事業所での開催や自学自習等、コロナウィルスの感染対策をとった形で、内部研修の企画・運営を行なった。 また、研修の学習効果が低下しないよう、動画資料やテスト（チェック表等）を用意した。	８回
地域交流委員会	広報誌「風のおくりもの」第４０号を９月に発行し、区内町内会に回覧した。第４１号（法人設立２０周年記念号）は３月発行を目指し準備を進めたが、掲載内容の充実に伴う増ページのため、発行は新年度となった。イベントでは、新型コロナ感染症防止のため１０月２９日に延期開催の「そよかぜふれあいまつり」及び１１月５日開催の「こうなん子どもゆめワールド」で、「そよかぜの家」と「そよかぜの南の家」がパン販売に出店した。	９回
健康推進委員会	「横浜健康経営認証クラスAA」を取得することができた。 港南区保健センターの栄養士と歯科衛生士による出張講座開催。 メンタルヘルス研修を開催。	６回
給食委員会	円滑な給食提供ができるよう、また、利用者に安全な食事を提供できるよう、食形態の調整やメニューの改善について、給食委託業者と各事業所間で情報共有し検討を行った。	６回
予算管理委員会	各月の予算の執行状況の確認をおこなった。赤字事業の改善について担当課長を交えて話し合いをもった。	５回

【資料1】

そよかぜの丘　2022年度事業実績

事業名		項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
そよかぜの家	相談支援	相談件数（延べ）	430	400	433	410	525	469	477	503	481	484	501	576	5,689	474
		相談者数	119	119	130	112	132	130	119	125	127	118	130	157	1,518	127
		個別支援会議	4	3	6	5	2	4	2	5	6	5	12	11	65	5
		支援計画作成	8	6	3	5	9	6	1	3	4	5	4	3	57	5
		モニタリング	12	14	15	15	15	12	19	13	12	17	12	12	168	14
	障害者自立生活アシスタント	登録者数	18	17	17	17	16	15	15	16	16	15	15	15		
		利用回数（延べ）	163	109	131	84	92	81	75	125	75	106	88	59	1,188	99
	日中活動支援事業	契約者数	90	90	90	89	88	88	88	88	88	88	88	88		
		利用者数（延べ）	986	910	1,057	934	946	917	968	874	905	854	823	1,042	11,216	935
		利用者数／１日	39	40	41	37	38	38	39	36	38	37	37	40		
		給食利用者数（延べ）	929	867	1,008	895	826	832	907	656	823	776	792	1,006	10,317	860
		送迎利用者数（片道延べ）	751	729	829	735	754	666	738	537	674	606	634	838	8,491	708
		入浴利用者数（延べ）	36	30	38	29	32	29	30	21	27	27	28	33	360	30
	生活支援 ショートステイ・一時ケア	登録者数	1,425	1,427	1,433	1,436	1,440	1,442	1,443	1,448	1,452	1,454	1,455	1,421		
		ＳＳ宿泊者数（延べ）	66	69	73	78	57	59	67	65	69	59	49	68	779	65
		一時ケア利用時間数（延べ）	466	502	502	518	454	397	437	526	507	483	476	446	5,714	476
	生活支援 おもちゃ文庫	利用者数（こども）	10	7	13	11	16	15	4	18	22	30	17	23	186	16
		利用者数（おとな）	9	7	16	8	13	13	4	15	21	20	13	17	156	13
		合計利用者数	19	14	29	19	29	28	8	33	43	50	30	40	342	29
	生活支援 余暇活動支援	プログラム数	0	5	4	5	7	6	9	3	3	2	6	0	50	4
		参加人数	0	12	9	15	7	16	21	8	7	6	16	0	117	10
	地域交流	地域交流室等　利用件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		地域交流室等　利用人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		見学者数	0	0	2	0	2	0	4	2	1	4	3	0	18	2
		ボランティア人数	1	1	0	0	1	1	2	1	2	0	1	0	10	1
そよかぜ南の家		生活介護　利用者数（延べ）	527	499	587	535	534	529	548	521	495	477	453	559	6,264	522
		就労継続支援Ｂ型利用者数（延べ）	213	201	239	223	235	229	237	216	194	206	209	241	2,643	220
キララそよかぜ		利用者数(延べ)	362	378	413	391	381	387	386	389	358	353	352	396	4,546	379
あ～す そよかぜ		利用者数(延べ)	318	315	359	302	270	317	313	308	310	296	295	371	3,774	315

【資料2-1】

横浜市日野南地域ケアプラザ
2022年度事業実績

1. 介護保険事業等報告

		第1四半期（4～6月）		第2四半期（7～9月）		第3四半期（10～12月）		第4四半期（1～3月）		合　計	
	人数 / 要支援	包括分	委託分	包括分	委託分	包括分	委託分	包括分	委託分	包括分	委託分
地域包括支援センター 介護予防支援	実績 予防	107	212	118	218	119	228	121	221	465	879
	実績 介護マネジメント	107	189	103	186	110	187	118	182	438	744
	実績 計	214	401	221	404	229	415	239	403	903	1623
	合計	615		625		644		642		2526	

		第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期(10～12月)	第4四半期（1～3月）	合　計
居宅介護支援	プラン請求実績 原案作成受託件数	62	72	75	73	282
	プラン請求実績 要介護1	63	91	78	63	295
	プラン請求実績 要介護2	65	94	92	86	337
	プラン請求実績 要介護3	26	27	23	23	99
	プラン請求実績 要介護4	8	12	10	13	43
	プラン請求実績 要介護5	0	0	1	1	2
	合計	224	296	279	259	1058

【資料2-2】

横浜市日野南地域ケアプラザ
2022年度事業実績

ボランティア活動	団体	登録数	25	団体
		施設内活動数	22	
		施設外活動数	0	
	個人	登録者数	88	人
		施設内活動数	442	

登録団体内訳	団体Ⅰ（福祉保健活動団体）	50 団体
	団体Ⅱ（福祉保健協力団体）	55 団体
	団体Ⅲ（利用目的外団体）	0 団体
	団体Ⅳ（法人（福祉保健目的）	5 団体
	団体Ⅳ（法人（福祉保健目的以外）	0 団体
	合計	110 団体

	部屋種別 / 時間帯		多目的ホール	調理室	ボランティアルーム	地域ケアルーム	合計
利用実績 部屋別	内訳	9～12時	577	30	88	215	910
		12～15時	515	28	95	262	900
		15～18時	437	25	55	240	757
		18～21時	71	0	3	13	87
	延べ利用件数		1,600	83	241	730	2,654

	団体種別 / 件数等		延べ利用件数	利用人数
団体別利用実績	団体Ⅰ（福祉保健活動団体）		723	3,404
	団体Ⅱ（福祉保健協力団体）		1,122	3,708
	団体Ⅲ（利用目的外団体）		0	0
	団体Ⅳ（法人（福祉保健目的）		5	35
	団体Ⅳ（法人（福祉保健目的以外）		0	0
	登録団体以外の利用	ケアプラザ（自主事業）	684	5,576
		ケアプラザ（その他）	232	1,072
		行政	1	4
		その他	4	19
	目的外使用（未登録）			
	合計		2,771	13,818

【資料3】

港南中央地域活動ホーム　そよかぜの家
2022年度 生産部門収支決算

	各部門別		売上	経費	収支差額
生活介護事業	パン（みかんの木）	パン	10,067,808	11,107,958	△ 1,040,150
		法人内取引（内数）	131,580	9,700	
	喫茶（みかんの木）	コーヒー販売・受注作業等	71,460	1,003,873	△ 932,413
		法人内取引（内数）	400	0	
	りんごの木 ももの木 くりの木 れもんの木	陶芸・空き缶つぶし 受注作業等	315,943	1,466,457	△ 1,150,514
		法人内取引（内数）	11,480	0	
地域活動支援センター事業	ぶどうの木	陶芸・空き缶つぶし 受注作業等	5,026	34,328	△ 29,302
		法人内取引（内数）	120	0	
合　計			**10,460,237**	**13,612,616**	**△ 3,152,379**
		法人内取引（内数）	**143,580**	**9,700**	

【資料4】

そよかぜ南の家
2022年度 生産部門収支決算

	各部門別		売上	経費	収支差額
就労継続支援事業B型	パン製造販売	パン・製菓・おこわ・糸こんにゃく	9,134,221	10,264,763	△ 1,130,542
		法人内取引（内数）	106,380	34,052	
	サポート	洗車・自販機飲料・受注作業 ポスティング・バスターミナル清掃 港南台駅前清掃・草取り作業等	2,505,087	982,409	1,522,678
		法人内取引（内数）	306,230	4,210	
生活介護事業	清掃	館内清掃・バスターミナル清掃 港南台駅前清掃・ポスティング等	2,113,685	1,802,218	311,467
		法人内取引（内数）	1,681,020	31,578	
	創作・受注・販売	手芸品製作・受注作業・販売・ 広報配布・ドリンク販売等	610,848	1,425,530	△ 814,682
		法人内取引（内数）	65,373	0	
合　計			**14,363,841**	**14,474,920**	**△ 111,079**
		法人内取引（内数）	**2,159,003**	**69,840**	

【資料5】

キララそよかぜ
2022年度 生産部門収支決算

		売上	経費	収支差額
キララそよかぜ	ロースツール・手芸品・ポスティング 受注作業・アルミ缶つぶし等	597,434	597,467	△ 33
	法人内取引	0	0	

【資料6】

あ～すそよかぜ
2022年度 生産部門収支決算

		売上	経費	収支差額
あ～すそよかぜ	受注作業・メール便配達・ 畑作業・空き缶つぶし等	405,378	405,397	△ 19
	法人内取引	0	0	

【資料７】

2022年度　年間外部研修受講状況

種別	内　　容	対　象　職　員	参加人数
社会人としての 知識・技術	・マナー、来客者、電話応対 ・法人の事業運営・組織についての理解 ・IT活用技術、情報の管理・共有 ・個人情報保護、守秘義務 ・権利擁護、安全への意識 ・時間管理を含めたコスト感覚の向上	新人職員	2
福祉職としての 基礎知識	・福祉職としての基礎知識 （障害特性、基礎介護技術など） ・ケース記録の書き方 ・個別支援計画の作成を含めた書式作成 ・施設交流研修	１～２年目職員	8
福祉の知識・技術	・分野別横断的知識 （普通救命講習、てんかん研修等） ・分野別専門知識 （強度行動障害、専門職、医療ケアなど）	各事業関連の職員	164
対人援助能力	・相談、ケア、傾聴技術 ・地域とのコミュニケーション ・営業技術から交渉技術など	各テーマ関連の職員	60
地域福祉推進力	・地域ネットワーク形成 ・地域行事の参加からニーズの把握	相談・自立 ・地域交流	28
マネジメント能力	・人材育成 ・リーダーシップ（部門責任者、主任など） ・ファシリテーター技術 ・危機管理能力（防災・災害） ・社会環境 ・マネジメント	中堅職員、管理職	29
運営	・組織経営（コスト感覚） ・労務管理、人事考課 ・第三者評価の仕組み、苦情解決	管理職・担当職員	9
人権	・障がいのある方・高齢者の人権について ・成年後見制度、消費者センター等機関活用	全職員 各事業関連の職員	8
制度	・障害者総合支援法 ・経理・労務に係る制度	関係職員	3
合計			311名